大濠公園と街をつなぐ雁行・ヴォイド・グリーンイーブス

主題1：公園と一体となった美術館、主題3：日本庭園の活用と再整備

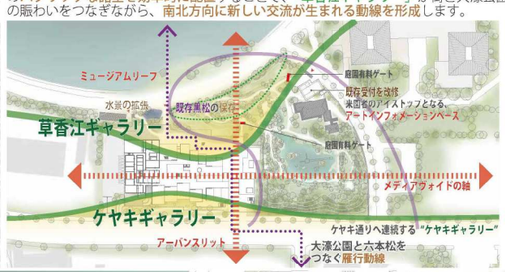
街と公園をつなぐアーバンスリット

■本多静六が大濠公園を起草する発端となった西公園と松林の関係を継承し、大濠公園と西公園、六本松をつなぐ都市軸と一体的な方向性をもつ「アーバンスリット」をつくります。
■中根金作が作庭した日本庭園の松林を残しつつ、万葉集にも謳われた草香江の入り江の風景を想起させる築山「草香江ギャラリー」には松を新植し日本庭園と連動させます。福岡らしい場所の記憶を継承しながら、草香江の入江の再生と小さな水景の整備によって、新しい風景と動線を生みだしつつ、大濠公園と日本庭園を繋ぎます。

主題1：公園と一体となった美術館、主題2：県民が親しみ、誇りを育む美術館

アート活動をつなぐ草香江ギャラリーとケヤキギャラリー

■深い庇、屋上庭園等に折り畳まれたランドスケープが建物を形成し、ランドスケープと一体となった美術館自体が公園となることで大濠公園の新たなランドマークをつくり、セントラルパーク構想の拠点となります。
■国体道路側には「ケヤキギャラリー」を設け、警固地区から続くけやき通りから連続する新しい顔をつくります。メインエントランス・ミュージアムショップ・カフェのパブリックな諸室を効率的に配置することで、「草香江ギャラリー」が街と大濠公園の賑わいをつなぎながら、南北方向に新しい交流が生まれる動線を形成します。



主題1：公園と一体となった美術館、主題3：日本庭園の活用と再整備

日本庭園と美術館をつなぐ雁行配置・ステップボリューム

■大濠公園の景観と日本庭園に配慮し、建物の高さをできるだけ低く抑えます。日本庭園に向かって建物をステップ上に低くすることで、庭園への圧迫感を軽減します。深い庇によって形作られる建物が、日本庭園の借景の一つにもなります。
■市立美術館や茶屋、能楽堂と共通する雁行型の配置が、周辺環境を取り込みながら建物のボリューム感を軽減し、自然と調和するヒューマンスケールの空間を創出します。日本庭園入口受付は茶会館の意匠を考慮しつつ改修を行い、新美術館と市立美術館の中間点として、従来の日本庭園及び茶会館の管理機能に加えて、チケット販売やインフォメーション機能を持たせる「アート・インフォメーションベース」として、新美術館、市立博物館、大濠テラスをつなぐ要として機能するように整備します。
■日本庭園内に点在している四阿を改修し、日本庭園の現在のコンセプトを踏襲しつつ、新美術館と連動した意匠で新しい風景を創出します。
大濠公園、日本庭園の各所に様々な機能が点在し、効率的でコンパクトに計画された建物が公園と一体となった新時代の美術館を形づくります。

主題2：県民が親しみ、誇りを育む美術館、主題4：施設整備に必要な基本的性能

県民のアート活動をつなぐメディアヴォイド

■フレキシブルに機能するロビーの吹抜空間「メディアヴォイド」には、展示室、県民ギャラリー、多目的ホール等の様々な機能が滲み出し、新しいコミュニケーションを生み出します。展示動線の各所に設けられた「メディアスリット」はライブラリーとしても機能し、必要な情報をどこでも取り出せ、大濠公園や日本庭園の風景を楽しみながら様々なメディアにふれることができるデジタルハブとなります。
■天井高さの異なる大小様々な展示空間が、現存する美術作品だけでなく、将来的に購入する美術作品や国内外さまざまなアーティストの企画展示、デジタル技術を使った未来の展示方法を許容します。また「メディアスリット」を活用することで、展示空間の接続連動を可能にしています。
■だれでもアクセスが容易な地上レベルに開かれて配置される県民ギャラリー、ワークショップ室、スタジオ、キッズスペースが連携しながら機能し、賑わいを作り出すとともに、福岡県の地域社会の参加を得て発展することができます。

主題2：県民が親しみ、誇りを育む美術館、主題4：施設整備に必要な基本的性能

福岡の歴史・風土と未来をつなぐグリーンイーブス

■縄文時代より長い間積み重ねられてきた福岡の歴史の積層を表す重層の庇「グリーンイーブス」は、鴻臚館や遣唐使を歴史にもつアジアとの交易の場として発展してきた背景や、東亜勧業博覧会の会場ともなった大濠公園など、アジアの玄関口として古くから世界に開かれてきた福岡を象徴するオープンな建築を作り出し、環境制御や緑地の創出等、様々に機能することで、世界に発信していく新しい美術館像を形作ります。
■建物を構成する素材には、県産材の杉やヒノキ、石材や県産品の博多織や久留米絣を積極的に取り入れ、県民が親しみ、誇りを持てるランドマークとなる美術館とします。
■建設で伐採した樹木は、県民と協働するワークショップで、美術館の内装材や什器類、展示備品等として継承していきます。

アートイベントの拠点となる美術館

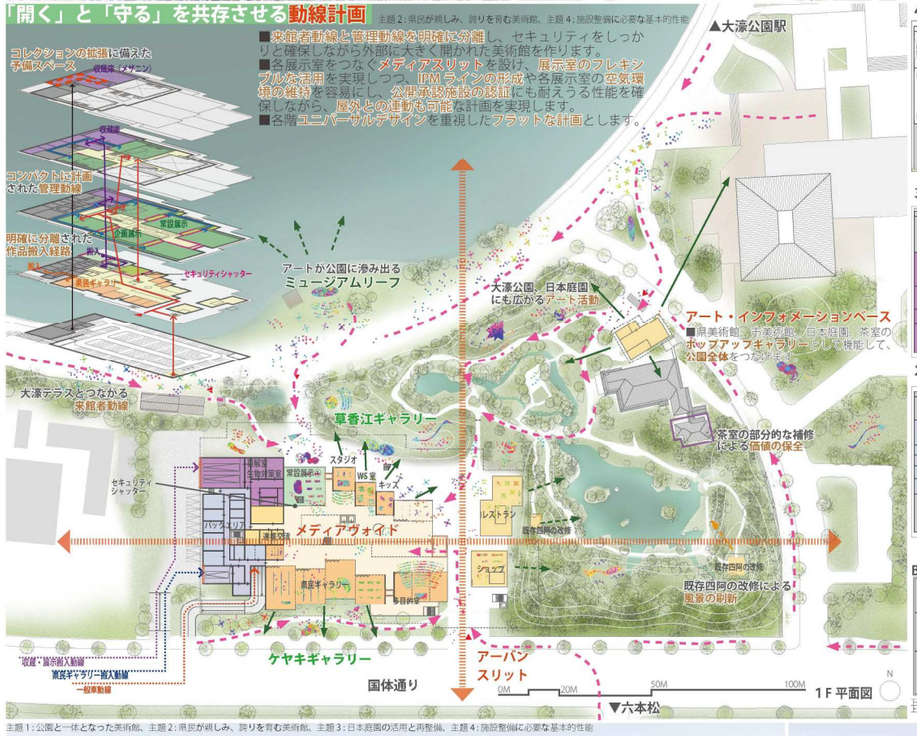
福岡県産木材の活用

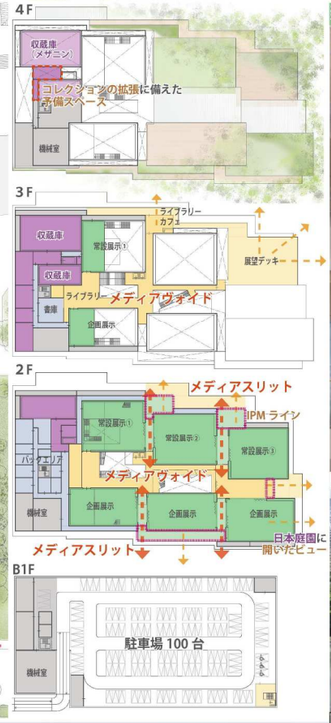
伐採した樹木の継承

「開く」と「守る」を共存させる動線計画

主題2：県民が親しみ、誇りを育む美術館、主題4：施設整備に必要な基本的性能

■来館者動線と管理動線を明確に分離し、セキュリティをしっかりと確保しながら外部に大きく開かれた美術館を作ります。
■各展示室をつなぐメディアスリットを設け、展示室のフレキシブルな活用を実現しつつ、IPMラインの形成や各展示室の空気環境の維持を容易にし、公開承認施設の認証にも耐えうる性能を確保しながら、屋外との連動も可能な計画を実現します。
■各階ユニバーサルデザインを重視したフラットな計画とします。





主題1：公園と一体となった美術館、主題2：県民が親しみ、誇りを育む美術館、主題3：日本庭園の活用と再整備、主題4：施設整備に必要な基本的性能

新しいコミュニケーションを生む美術館の中心・メディアヴォイド

■公園の緑に溶け込むグリーンイーブス

■街と公園をつなぐアーバンスリットとケヤキギャラリー

■日本庭園とアート活動をつなぐメディアヴォイド

■メディアヴォイド、草香江ギャラリーにアクティビティが滲み出すスタジオ、ワークショップ室、キッズスペース

収蔵品を守る適材適所の構造計画

■主構造は公開承認施設の要件を満たすRC造とし、開放性を必要とするエントランス、ロビー、カフェ等はS造を採用し、収蔵品を守りながら、大濠公園・日本庭園への開放性を確保した適材適所の構造計画とします。

収蔵品を守り抜く柱頭免振

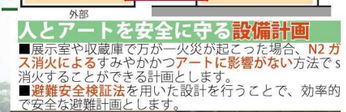
■効率的でコンパクトな平面計画に適した柱頭免振構造を採用することで、収蔵品の安全性を確保し、工事量や工期を少なくし、コスト削減にも寄与します。

100年建築を見据えた設備計画

■消費エネルギーとランニングコストの低減と来客者の快適な美術館体験を提供するために光センサーによる調光制御を計画します。
■今後増えると予想されているメディアアートに対応できるように、太い通信回線を入れられる機械室・シャフトの予備スペースを十分に確保し、未来の展示方法に対応するとともに、更新が容易な計画とします。

収蔵品を守るバッファー

■展示・収蔵エリアの周りにはバッファーを設け、収蔵品に対して、災害をはじめとする、外部からの影響を和らげます。バッファーにはロビーや機械室等を配置し、「守る」と「開く」を同時に実現し、快適な室内環境を実現するZFR対応のコンパクトな計画とします。
■高潮をはじめとする風水害に対して、2階以上に展示室・収蔵機能を配置し、収蔵品を守ります。被災時でもGLを上げて高潮等の影響を軽減しつつ、掘削量を減らします。



人とアートを安全に守る設備計画

■展示室や収蔵庫で万が一火災が起こった場合、N2ガス消火によるすみやかかつアートに影響がない方法で消火することができる計画とします。
■避難安全検証法を用いた設計を行うことで、効率的で安全な避難計画とします。